きしめさと

下

伊地知文庫
文庫20
147
2

文庫20
147
2

作くめあと下
さ紀よ為作し。六義篇序題奥流。於れば
作りれきまりおの日作り。先哲作り作るに
分別めきてうを古てうざうん。好士ハいのむてう云
めり乃白紙作作らん。代く集乃趣又化人れ意道
歌日紀夫作らんまれ。ちば清りれてと更ぢ稱
々古今集みをも称と書めらし作り。乙配
はぬ月記なぜみを。此為條之事を尽しを
日とも。ちが白をたまれ作よりも。哭ハ遠
いりりごとの。ねハ白紙作らんもも。

伊地知氏書册

人の知智をはぐくむことを旨とせり。作らんのみ。
六義のすゑ歌詩を作らん。篇序題曲流れ
八音の五声に作ざるなりべし
篇を人を為ぬるゆゑ歌みを作也
序はまづ次第をまづ作也
題をばそれぞれの題を知るべし
曲はそれ色題を知るすさびなり
流はいとをひろくあるべし
此五の作ざまを連歌みを上下八句紙ひと
つを吟合て作らん也。此用ひなくば冠也

是よ是。皆をいとくくこと有るべし此自分
まあ好士はぐけちぐみをこれども。けい
ぬのかをものみ前とちり。大やうよいひあ
るをとぐ。をとぐ紀ぐさうにべし。あ白れうにる
ぬびひのうしひをうしひをなるべし
とも也。おの紙まが白よなして吟合ともいう
篇序題長流乃八音八五律六義八和歌乃
六根あるべしとも也。此一よ歌ども作八百乃八和
破点法絶法編八序正流通周級磨俞乃と
よ作よまどひ作べしとも也。されば古人の歌たる

又ふるの月　是実乃山　ほとゝぎす

わかれをしむ　ちるもみぢ　又なつ

乃山ゝ　山とり　山とりれ秋のすゑおのさとなど

まりの字に中ゝ多ゝ　くくをけるもの

何しびさ乃ふる　山ゐ乃おのゝ　ちりもみぢ

てゑすあ作者ばかれさ　のび大やうよえんゆ

ちつり。色よ白く　満白といふことわりそれハ

又音ちうせさ　ゆ人よ大きなる病也。ふとりれ

月よおの人乃ちゝ　おゝ　秋風乃松の繁ちゝ

紙ふきてゆどゝ　人ハ　ゆ人よ病とは

びおれ多ゝ　寒月　ゆ人多ゝ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

昔乃高位よ。あふ人ゐ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

ねゝ作者　ゆ人ゐ

かぜ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

いちゐ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

きゝ作者。ひえさひるゝ　ゆ人ゐ

ゆべし。作者ハ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

乃月ハ乃ゝ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

ゆ人ゐ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

作よ。ひ多ゝ　ゆ人ゐ　ゆ人ゐ

かりくるさらの代の解釈を書物にあつめ源氏物語
見しえんなさしのびのぢやうにておしうを後世
よみとうけうをめべし。此道よりうん蓄いまの
えんをもひとしきりすぐきまりといひう。源氏といへ
どとくに。ひとえは白乃源氏乃風さどこころ
まあるべうず。源氏乃胸へうみんきん乃文よ
をうすくもよろばはよろれきまとさひきあ。
人へ情と長れどその人へもんまひとりへ命
をとうくすひ作うん人乃ひとりあるる
白めべし。心乃かどをしる者へ白いすぐる紛い

さしてはこの年ちハ偽のこ部を作べしく
乃心きよう命べうずすも世ばこバ古人乃名者自
賛へ分どもに。ずしをとうばをしうかまれみを
乃しぞ。ぼよ上代乃歌どをすぐれるを自と
せしほどにそぐまる世へうざをしる侍ること
乃ハ。秀逸とをうる紀ぐくや作うん。之家の藤
をさ人狂歌作を作のうひしうも世。嘉歌面りを
しそ歌うみうんの世歌し
人ハ心ざしへうきとうを。歌ハ人のうき風とる
というう。庶民ハさうきとうして市よあるる

ぜうまも。俗説ハ細氏らう義なれた。殿宗乃夢
よい俗説ハ鶴ハ鶴を はるゝとゝかゝこさ名を
えゝ也。司馬相如ハ衣と一しょでたうさ氏といい
鶴氏相氏。方よ海とひしゝうどを。そ名ゝれど。
ちゝハあるとゝどゝ。ちがさゝれバ。ばんうやまかぶとゝ
ハ。源河かゝゝうん。奇うちへ所雲なるべゝ。ゝづく
乃ひゝろよ吟。作るも。藤花雪をゝゝゝゝく。
おゞば。ゝけみとゝ。まゝりざ不肖へ家れゝてゝ
るまゝきゝうに見ゝく作り
先人。借見作りゝ。ゝゝ乃好士へもていくゝ

まゝ作りゝ。ゝゝ乃二條大納言海乃藤郷雲客に
紙句ゝ。ゝ。ゝ飛ゝ家なりゝ。同ゝ法師。花と
二十七ゝ。ゝ海ゝ也。毛作ゝ氏ゝうゝゝゝ
ゝべゝ。ゝ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
どゝ氏とくゝ海ゝ。上飛ゝゝゝゝゝ。藤花雪
とまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
上はゝゝゝゝ廣ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
作べゝ。佛法ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

自ようる為ん為ん初めは。未得の人に自ら為し
知得の人に為る者なり。自ら為の義。為に利益
教権理実といへり。仏外法無しと知り。輪廻
一心覚知されば生死とをんずるなといへり
日宵為報佛夢中権果毎作三身覚前實佛
志うへあるべし。定恵の為に自ら為へざるん為人也。
先達ゝるべゝどといへり
いはゝかゝれ人に自ら為みつゝば紀年を越
どもを為をなをとをきく。第刻にうひへよう
おんれ自ら為に傳ゝれ作り。為れの為に作り

いづれにしてもとも物よりとかんん
情面報恩と自ら為してやうをいひ法ゝ。おとり
なれ不ん幽玄哀れあるべしとも也。為みを不の弁と
て面報ゝうをのゝ。ひとりきを極の弁也尚以て
れ人一人ゝるべとなをべゝと。定家にも為る
し法ゝ。為好法師が。月花をめでんを見
為れの。為れ和よ志ひなゝ。ゝり志はれる木
陰よきく。為みゝうゝ為ゝとゝ書作ゝ。
海ゝとゝにゝん為ゝく定作り。為陽はよ。為のね
中ゝ。月へく為ゝ付ゝ為なれ初めあるゝ志く

きてうといふべし。感情等閑なるべし。是詩よ春
風桃李花開日秋露梧桐葉落時哉是歌の意句
なるべし。此風雅なるべし。句の句ばれ句のと
ぐ。されば先人も意の安かれと言ふも
流石なりといふ。おもしろき意れども詩よ胸のうち
ちりおべきことなるべし。色也。色家つ旅枕の日々す
さ哀よ思ふて人まれ未れ白也。清巖和尚所
秋の日はとりちりきさうれ雲のうちよ萩の花
ひふの秀哥殊よ法名れ師自悟の哥ぬべ知すれと
りうさるべ。巫山れ仙女れ沼五湖の極水れ白新れ知れ

わ〳〵はとべ〳〵須若以色見我以音聲求我是人
行邪道不能見如来日我覚本不生出過語言道
遠離於因縁知空等虚空
かゝるほとりの人は格合きゝしれのこ。きびしくて
白のうちの白ばかりつゝ作しざるやうん。格合
嶮はかりれもしよりよりべしと也。位階級の上れか
ぬきうなれば。帰令佛法の戒律みどれどゝ
愚し。戒論れう人は未亜孤よ知ず絶すれゆる
とまりちを丞乃て作り。心地と西孤とする也。
されば海とれたよ人は。奇人は格式の外れ

わかう法師。天台云戒緩衆生乃人あり。衆緩
戒急人なり。しかも。日利根外道邪相正相入
鈍根内道正相邪法成といへり。日戒虚空如持
者顛倒とをもも云日真妄生死寛持戒あり
といへり。いかに人乃えしやみをいかとひとく。
かいはもうさ法人を救ふべし。亦仮をもうれ
あり。まことに人なかべし。云賓伽那を船汝
とかの。又山田をとも成給しとも。教待和尚を魚
とのと食し給人なりとも。浄花供養ホいかをとひざに
とも記おぼしめしけれ踏とおもうとしまうとも。

天暦十年八坂の法傾の門
康保元年

[illegible]作の事
湯殿上人の牛よ乗てかつさけとやらんとた
かよとも記く。供上よ乗給ひしとも。ちうかあ
ど。戒い仏法乃恵命。法花乃[illegible]
遍乃宗一なり。ちうそうかちうべしとをもう。
五戒とも云五常とかくしる名あり。仁儀礼
智信。色ちうおくてい方乃破行べし。法
乃よ稚。鄭己達とて。ごう乃ぬあうべしとあり。
鄭人己達乃事。[illegible]。稚ある人乃学問記よあり。
孔子ホ七十あり。ちうしかとも。
ちうしかは合姫とをもうべうまとあり。

冊まてのかわと。外纖内淨。外淨内纖。すべてのことの
ごとく。乃報よ姉うき歌

うこゆるきてに深ぬ雪ふるかとやよかりなん　西行
ゆきとのいたきぬを町のしも世俗ろをとんろで炬き　慈鎮
物ともろ見よ和を見ゆるうて伝れ元る男深よまり　仲実
ひかいか稼内淨乃白なるべし。ゑとへが金紙はく
里に。はくこそるべし。人はたるれくて門よたう
死わ見べ又濁ぬ人ゑ乃報是ら家お
ゆしとれう
わうれふかろしれさ遠よおにと命ぬ幾よ独な

此ゑびゑ数とまるべず。外淨内稼乃家なり。綿
て。不淨乃物とはくこるなりべし。人も濁ぬ清
きハ変くれ身也。ハ乃みるべるふ。稀ありもれん。
るは人乃死よ先逢ぬるとも名かハ紙えあを
が次格よふひくるしく作り。いる也乃ゑも穢古と
工夫とハ。遠よかうりべき也。されハいのるられ所
数物物よ隙とさしせるも。濁りよ吟寝身ゑ
乃不れくハ。ゑりるしと也。西行上人も家乃ゑ
ひとゑよ稼色陸りぬたものくりされとと也稼乃
よゑり作ハ。秘直路乃法なゆべし。絶伝の云

和歌は道のうるはしき。善悪をすなほに直路に。
真如実相なり。三十一字はおさなきものさい
ごもるを。己が家々はひ自ら慈悲の縁物を結ん。後成
恩はよろこぶ。人ゝは必一大事なり。ひたすらに
海をわたり。今れ南来をこゝ伝るまゝ。あまねく
とく。かけたるなづむ。いてたまひしよ。位貴大
明神なり。ひとしく祝まひて。ひらきあまねし。
奇瑞を踏うに。ひたすらに。必往生
をとゝげのみ。奇道則心直路の法なり也。
なゝをしのびをしるし也。これ篇序題異流なり

五大五智。五佛。五智。金剛界。六義。
六道。六波羅蜜。六大五尊法界の神也。古今集
灌頂おどくいとり。密宗は一大事なり。偽よかる
まれ。なほ也。なほ奇瑞は吾國の無尾也。
編者と編ずる附ハ。編編をとみ編をとゝ
中世にあらはれ。
とゝりもつて
白れ
安ハ紙とめ

物になり。連歌ハおもくれありさ候まゝく。是句か
ども玄妙にかなへしと也。たとへバ大佛ハ蘭都
になりとしてらん所とのまりかに三業の嬰兒もある
なれバなり。されども和子が小兒の交りに系せる語
にまく。小僧小兒詣すとうきする。言外の返答に
ハ暁きてともし也。歌も詠とめてと。ひとつの姿
也。これ婉艶のよし也

円然落花とて　　公忠卿

よしの山とてもゆくやにはなのちりがひ志がらぬきをかすれ

大井河遠まく和歌浮めとして詠

藤原資宗朝臣

こと私

袋士よまでもかんをとハいつから咲花のかつら
時にあらく家曲の餘感情あらしとおり
所は人ハ聡し作人の弄連歌の句を御んする
ともがらをがてとが御しきまりにありて梅ハ
ひとよをもしろまく。人の句のよしあし志
見きるや。先達もらし。さすがの好士ハみ
ちに嫉妬の業如べしハ道の花も。よのやま
と侮しねまりとがバ。そのざのとみく志は都に也。
仏法ホと。偏執清白古則の雜陳少紀のいる

おうへん所感也。成佛國土教化衆生大乘大
悲也。此意をうつしてたとへにつるさへたりけりや
かれを作意すなはちみとるくまもとよりと見る
也人は生死乃網ありといへり。地によりて立也。
地によりて起ぞとし。又云哀樂ハ口よりあがりし
とへども病をいやす。日本滝縄材也。宍滝諫
賢也。日鈍劔もとげハ利。瓦もみがけバ玉なり。
魏文王仁義が賢とも翟黄がいさめによつて知
り給ひし。又云大臣惰祿不諫小臣畏罪
不言 法ハ無生也。縁を待て成といへり。されば

又云一念三祇三祇一念 觀彼久遠猶如今日と
見バ久き稽古も只今の教寄も。邪にならぬやと
ひとへにいへバ修道ハわれしらずしらずしらへしとなり。經
云初發心時便成正覺と経也。日若能轉物即
同如來と也。稽古年をつもりても。天台文字法師
暗證禪師あるべし。又偏に邪路によつて人をいふ
ぞ。諸見出るの修べし。又云君子欲人為家
小人損物為德。日浸潤之讃。膚受之愬
先よ為ものしけれと交をえん。彼每兆身打傳
うかべし。先賢乃以て家傳わさきし。かくけなく

胸の中にうちこめる人は。おぼつかなきを。
交れば。面のうしろに。麻の中に蓬なれば。ますなれば。
しさすが友よりてなれば。よろくれば。
きえぬべしとぞ。白氏の人と。
戰為實。若し交為鏡。水の如。人交
如糖。不直交不若早離。善見如客舞見
如笑。樂天元稹ハ。始終のめぐ遺文軸
玉乃詩のわり。原上れ出る費ハ打て名ハ紀也。
菅家作詩結とはつめる。紀也。紀大納言乃
文へ送ひしぬ。ぬつまて長ものきまて。

ひ乃玉也。人へ。花乃ものを。日毎日。おの乃
一和へ友とも。情深き類とぞ。うしくれ
ぬ。意思ひ。人へ。達摩大師と。
ぬ思ひ。級ぬ。
法華乃。なれ。ぬ。
ぬ。清巖和尚常に。
ぬ。日ぬ。和尚へ友のとぞ。
こぬ。ぬて。
ぬ。釈迦へ。弟子。
仰ぬ。古人。
ぬ。法白乃。
ぬ。法白の

ゑとは。俗よ云ふ也。色ハ法ハ深ク秘句
のこと秀逸ハあり。親句ハ深ク秘ルゆゑ
親句。深ク秘ル親句。深ク秘ル深句。深ク秘ル
深句。深ク秘ル深ク秘ル深句。深ク秘ル
ゆゑ。親句ハ有相。深句ハ無相。親句
ハ教深句ハ禅。縁ハ了義不了義経。世諦
第一義諦。有門。空門。
さとりよ心をとゝのへすかいのてう哥ゑ出ル
なれ作ら。法よ意門大悟ゑ心ゑ物有ハ
得と為ゑ。されハ天台相即空門ハ。十界
六凡四聖一相無相とゝり。法花ハ

定ゑ定とする也。佛五十年ゑ説ク。二十
年ハ果意ゑとゝ家ゑ也。ゆゑハ也と。和
ハ乃ハ浅ク深ク入。ゆゑ。法ハ深ク
ゑ浅ク。是法花乃和ハ定用ゑ。
果法果句用有相ハ無相ハ無ハ法ハ
乃無用ゆゑ。方便権用ゆゑ。
法末ハ教ハ大智ゑ教紙墨ゑ経巻ハ法界
ゑ流。一大事用縁ハ京ゑ。
法ハ有不得ゑ法ゑ流ク人ゑ化ス。
世界ゑ人ハ眼とゝ

讃歎の哥人のいはくうたを含みて親句みて詠よ
もとより心ある人は佛の心にかなふべし
是也。此説十躰の内にいつれを至極と定がたし
ひがし人勅定まて立かへりて紙上の秀哥仏にあたる
ありしは寂蓮法師。有家卿。家隆卿。雅経卿
以下ハ幽玄と定るところなりし也。數通拾遺
也。俊成卿。通具卿。定家卿なとも有心躰と定むる
極む也。むかしより長高く優にして胸の底よ
りおこる心の哥秘事の哥なりとなるへし
定家卿秘哥

長雨によそふこゝろあり村時雨それもまたしらるゝなり
清巌和尚哥
岩そゝく秋の日影ゞ日にそへてよれいつれ物の哀の色
是非の理の文字ゆゑとなく人の心とかく作意
の思ひよる人きこゆ。大かたハ家にむまれとも
てし。幽玄至極なる道のさかひに玄妙也。いにしへ人の心地を
しる哥の哥なり
古人老作る哥の沙まとある人。その人はるかに遠
源のまれなる人ハあるべし。二条ハ類なきさまなり
道を大切なりし也。定家ハ詩哥の十躰を分ち

海苔

故郷有海煙風浪接館客人書面魂

ちはやふるかねこの宋れん時雨ぬるのの山風
山二と見松所よ入まつる。奇異乃まれ也。歌乃め
ちれとりしてちりの絵し秀哥とりもり
日暮ら今物ちあんよれ所れんなれ毋ちれと行ん
ちくやふ和方とへてひさやひきそそ貴乃めし
光又秀逸ちれ名ちとやそとそ歌つし絵れること
ちくよ絵へりされちもみ少あるし

いかてちら法能幽玄ん好士し。能法のちと
うあくんハちちうちれ為也といちいふり
ちとちくちちひ幽玄とひちて挑ん乃人ん
みちれ完月あ為へしと也いみへちちと法
く思へる背世乃かまれちる人もれし小
雨よせ好士ハ必安祈れ師寿と慕なし
ちとかいくちちる為ちり。ち同入道と
八十よ及まく秀哥とのようけて位古れ之よ
能毎よかちちくみく系と也。也道法師ハ。
ちそかの為れまちと為ね行ちんとて白れ和の

何ほどをましとす。義経なくぱこときの人よ甚し
とあり。それ庶の人あやうしやといへば人の
命何ほどをまもりわたるといひしも也。大武高遠
は秀吾一ぞにて成せず。命をめぐれとも日本
住吉の明神にわしる也。智恵才一の舎利弗
も信によりて浮に入といへり。悉達太子の王位
をすてゝ檀山に入りしへのぼりしも。発心無常の
決さしよりおこれり。法の不三男の在師と
如あひて法界を照し給ふ。迦葉尊者もよく
山に籠居修し。一大事の決志断り行し人也

「かりかよりの村舞牧童などもへつ[illegible]の句の風
雅の道をたどらばたがはぬ事になかり。古人の跡を
なぞらへてもそれを作れ。心[illegible]は流くなる
趣にしか也。十体にわたるも其体は句の思ふ
たとへば月のまことあるべし。門をも作意ありとも
すなほをのぞみ合れどいひ。又人のいはぬことを
とさばとらば古人の味ちかきを好むなどして先人
秘し給ふ
引僧も正直のまことの作意かく。哥仙名を
ばえらしる也。されば二年三年とまず

めでたく書あり。ひろきさとりの人のこと
みくにの神国の文にはあらねども
仏法の中に法華乃ものすぐれたるよしとかれり。
のこりのくにの世わたるべきこと
儒釈道三教ありのごとく法華もまた
なれた。源は一かりとなりたる事仏の
かたり。西行法師居とのこのこころにて夢の舎席の
まねびと。人乃知ざるに世よ名をえるもの
もとなしと侍ど。人の命ありとかんがへつるに。
武士乃ごとくなる人のゆゑよ。

ゆゑ人はわるべしと也。維摩居士乃樹下の丈夫
は文殊大聖来るく礼しまつる。仲由は其の門の顔
乃屋せるる松乃ごとくよ。ひるに見れとなくく人
間れ見メを見せる也。顔回は一箪一瓢のごとく。
まよひとれてすなりう。鎮晨は藁席ごとくなりう
をひろするほどの物なれども。貴と也。分
子雅は絶よ山をおどろかしてとてなる也。食の
日は天下れ央と言ひ也。西行上人は弟を北人よ
な世た貴き世ま人をそ名を思と。鴨長明の石乃床
ま人後乃和流二度出家なりと也。波とこの奇

兄仏ゆゑ。利も徳もわるべうして。佛はゆゑ海こと
せつしてゆゑ。手不執卷讀常
此經口無言契遍誦衆典君子道少人貪欲
乃人ハ仏ゆゑ月ゆゑ。
作べし。うれえんかゆゑ。
為しむ。野花ハ咲て花ハ。
業造生人中苦。非力業力にうさとしいり。
ハうしこれた為ハ。
子上慢ハあさ。
又ひとハ数ハを先ゝ七分をうゑくかん。

人世ハ花ハ。
過しそれハ人ハ分。
と也作べし。
又仏さしの法さ人上ハ数寄ゆゑ
たゝをそ。
仏法ゆゑ乃人ハ有と也。先人ゆゑ作ゝ
ゆゑ人ハ河又作ゝ腦ハうゑ作と也。
他ハ一すをおてそ大小をあゝ。人ハ一言
をもてその要過とし所也。仁者必有勇勇者
必不仁

敬時乃人元とはつめく。少へ分紀年をたてね
ばても。佛祖乃法系を尊ぶべきや。杉助ぶくは
道を知る人の白をとて納受しなるべく受へ
給ま。古賢乃ことう作る。いつかも未練敬侍の好
士ゐくし。感意いかとをべうと。佛及五百羅
漢と語りし。極意乃法五一人と為ハ。公堂の
猶とうかとはつり。又破戒育国乃書みもち
そるとも。舎利弗同連のごとくやまへと孤り
佛心者大慈悲心也。たとへうりもみしぶん
ちうり完一なり。ちうはめ也ど不淨の法五の

くやしきあるだうをハ。礼せざれもい
ゐりいのバうりをうる人をも。分れかどれく也
よ去ちまれとんぶもていあと。倫ようるいあ家と
を代よあひ家をぐよ法ぎめきば百人与敬と
るれぶつうれ。光ハ貴えれどそれを愚也
家ハ貴かしうた。父ハうちるる也。家ぶよあど。
績とちうく。ぶとうた。人ようなうど。和をとて。
人ちん。人紙乃をと江。乃ちく人を江めて光ハ
下よ四すを恥ぶ。故よ達乃人之相ハ心紙知る
を光とすをいり。黄帝ハ牧童乃汁をを信

あり。源家ハ農夫乃孫なれ共ひろく世ニ
士程賤敷ハ無之候。大江ハ渭濱
ハ釣しらるゝ文王ハ車乃出ハ乃まり。若侯大
代ハ尼瀑つ尉國勝ハ子なしう成。ハ子こし
まぐそれ若とてしゝ次。大江時棟ハ弓矢乃家
らめしゝ也。松室仲英ハ北人乃門なり
うゝ宗論ハ八宗乃頂官しゝ。阿鼻依正金極
聖いしき有り時竜乃光士ハ凡下乃一念とこ
えゝと云
徳古之歌ハ松れ
れしなの人のほくゝよゝ

乃ハ勝劣ハ有ゆる事なれ共たゝく佛ゝ法ゝ孫ハ勝劣
と。中老までも法乃ハ勝劣なし紀人も。ほど
なくゝ有ぬ。所れ乃ハ有ゝまゝ。所れ乃ハ有ゝまゝ
道ハゆゝん者也ハ二年三ハれ乃ゝ。也涙涙
ハ有りまゝ。ゝ有乃ゝ也。昔澄信乃長
ゝて哥ハ徳古之ハ勝劣なし名をえゝ人
も。澄信ハ君ハ清ゝ人。定長ハ寒蓮法師と名
とゝく。ゝ之ゝ墨ハ深。ひゝわゝ者ハ有ゝく。日和ひて
ちを俺ゝ有ゝ。ゝ有ゝ有ゝとゝ。ゝゝけて八月日
乃海ハ凪ゝ。澄信ハ有ゝ。れ世ハ有ゝ

志伝へば名誉れ名ゆる毎紀よ生して名伝
ものゝ伝と都よりひなへ伝。情深き初也高う
して立でいでゝ人のゝずとゝへど。月へ法名れ名
ものゝとも也
縁よ法名よ心に志なく。り果うこう伝へを也世
を求するれ伝し。伊勢くうこて伝るより乃宮
一也。新田鯉なじゃさん不幸也。耳泉早渇直木
光れ軍菓樹拾重荷船震。よ紀人ぞ人ものゝ
へ伝れいあり乃ものを伝るなゝひなるよ。なりゞ
いきゝてうこてさて伝れくえて伝べし。紀よ

し老不死賊也との伝つり。芭蕉法師ゞいるる人を
久変た日十年と書ゆるるつうき初。中法
伝何変定法師と年人わり。変定ハ分れ毎
や不肖なりもん毎く述懐どのゝ世と也新義
集よ日首へられ伝とて撰名を九歳して源とを
ゞさ伝よ。伝何ゞ哥十余首へゆるるゝ変てば
日よるゞ哥ときるいゞ伝る也。伝何ハ世よ伝へ
ゆゞ人なるるや。虎嵐付よ伝とへばもちゆる
付ハ。嵐し虎乃ゞくく也。もちゆゞ伝代よハ虎し
嵐なりとへば不肖乃宮ハ遠よひるる毛伝ゞ

聖法師 今は昔 法師の家に
し東山の麓なる乃の家に
から。たよ恨と云しに法師を情深くもまた又後世
法師古き者と以ふかうかゆゆうつけ。故不
よ日来の泳者を地位と也。ひホれ人故の世乃ゆ
人とそ云しに世ふ如べし。衰ふのきまりたれとも人
世人間毀誉褒貶苦楽世上用捨生貪瞋
さ面ぐ好士世よみち位をひいてる人すく
なくや位ん。先人指位し。ひたよ恨る人で
づに獨ふりとぶ書位れば世と

よわりぐうふべし。わんげいよくるくられい
ふるれ乃世。市世いい移ん乃位り乃れ却く
ていおりぐうきさうひなりと云。子里足下ち
始る山巌麓より起。佛法乃敗壊乃元常と
て。代乃破うせんとを二乗とさとり乗を
どと含くれ元常。わごとにあれて忘れざるい。
ぐさの大悟乃ものあるなり。含くれ位り乃所
おわうもふしわるべうとと。まど人法わい牛毛れ
ぶし。古ふ人い麟角れごとと也。楚國乃
屈平独てそ。さあもりといひしう。光輝なんや

まよひのもとをしりて。佛の正法眼藏涅槃妙心
の所をも迦葉ひとりつたへて。破邪顯正のひろ
めことに單傳密印不立文字の所をもぐれ藝器合して機
奇なるよいまの人のさはぐれ藝器合して機
古あるまれなるこころをもつたへ。ようきことをもて伝
やうん。古賢の語伝しるしたる実の人
きよの藝わざとこそいへ。されども伝
よ相資おもとして。器合してよ伝しきもあり。
わきまへわざとも也。学門。佛法のりをもて
などの。所をよ相資の所をもぐれ。又碁將棋双

六をもてこころをもてされ類ハ。おもひつまもぐれ。又樂
器乃絃管ハ。さはくこころをもぐれハ。音曲よ相資
の所をもぐれ。又鞠をもまりの色いろをもてはじき
乃也。弄乃佛法学門よ囲碁双六をもまりの色をもてハ。
損益をもて大よ所をきをもぐひ也。古人ハ大國よ
を猶学れ人とのこいひしく。強よハ一藝一能とのこ
ゝ。ひとり機古をもげ。ちうん學乃されを境ハ
乃名誉ハわるべしとも也。先達語伝り
世世よ。乃所よいまの人ハ。まことに
さうなるけ形るぞや。先達語伝る。階級と

きれまよはく志ゐ所ひ。根雑志てるありさま
一度乃さかりしき。早く出退散とこと〳〵く
何へく志紀七歩乃ち。八之乃弱ゆもしらとそへ
ゆかもしきみく。嫁よたへ賢所ゆくくそ
見て仏道。猛獣ゆ山ゆ志ち。時ハ毒虫これゆ為よ志
ら。煩悩世ゆ有時ハ断曲乃ものれ〳〵と也。
書かれ書いね者る時。名薩ゆ海びすという。
ちかまへうゆ紀よめ〳〵ず。もすかまへ雲き
よめ〳〵ず。くすかまへ見れ紀也という仏滅ね
雑法未法乃時。蛮略仏像たの道ゆ海うと。

れ是法滅乃時なりと。志ゆあ道ど世も
ぐら人へ性を音すハ世ゆ。れば今へ世ゆ
うぐらも世たゆ。ざ〳〵めん寿ハ惜ゆの
きなるべし。仏ゆ紀世ゆらんと仏へ。
雑漢なる紀世ゆ。破戒者乃偽ゆうとそ
もしとゆう。金銀なる紀ゆ。ゆくね
とゆう〳〵世ゆ。高ゆし仏道乃ごく。是
指へと〳〵の方へ。ゆきの方へ。ゆくき人
ゆ。ゆ。ね乃世ゆ。只横根へ世。繁よゆ代
代集へ火天深ゆ。火変ゆ

をもはぬ信心をもとめしのり。洗眼眼見不絵心持
氷炭ちりとぐわ。ぐわ絵ぬがぬぐ〳〵といひ。者
藥病鵲が変業し。ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ性なれ
人の病をばいやさずぬ也。仏法をも言ひ
ひろめ人のぬのいるまに
ぬのをもれ業ぬ。唯うれ人のぬのいるまに
ぬをせもしのり。法也ば又愛ぬしきぬ
ぬうる也。御。貴成ぬうれ先生ぬ又続ぬ也。
斉乃振ぬ人成。車作乃義雖ぬ〳〵ぬ
なり。仏もぬをいきぬ這特ぬなぬ〳〵て人のぬ
過ひてぬ海ぬ〳〵ぬ流ぬ人ぬるぬ也。山〳〵不須説

秘法ぬ雖思ぬ〳〵ぬ。鴨乃何ハ水ぬれ
ぬ也。蕩れ何ぬ也。
ぬ〳〵ぬ。方位乃愚ハ正。正方位の
智ハ邪ぬ也。ぬ〳〵ぬ又冷泉の中納言為秀ぬ
無ぬ也。ぬ〳〵ぬ称ぬ同ぬ所ぬ平人ぬ。ぬ平
ぬるぬ〳〵ぬ。又迷ぬるぬれ人ぬ。ぬれや
ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ。ぬ〳〵ぬ也。ぬもか
し也。変別ぬ。ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ。聖人ぬ也ぬ。人
乃ぬ也ぬ。聖人ぬ知ぬ。人乃ぬ
ぬ何ぬ。但以假名字門等ぬ元也。正性定性

皆得成佛。歌連哥も仏乃三身れごとく。法報
応乃三身。空假中れ三諦れ渚の白あるべし。
うちひさてとりの竹しんは。応身れ歌
乃白なるべし。五根六根をわかしまし。
佛なる少なはいろはう色地の好士しさうは
色し。ひとめぐしまなるなるは報身れ佛
乃応身なるべし。人れ様を持くある時は現
何る時は化れまへば。智恵乃光乃ものでは
出るべしどこもしちすれ。ようれんよ
きくう紀白は法身れ毒乃ぬべし。智恵めく

し絶古めくし。ありぐうあべし。法華
ときやうくはうそはけしるその人れまれこよ
はのきしうあはべしと地。中道実相乃ふよ
わひ叶へうと地
佛法と法りして。ゆとこの佛と名ちん
みと。常住とくふうしてわきしうれるあなさ
らんみとのうれうしらをゆとこのはけい
ぐ乃姿とも玉極乃歌連歌と色わ作ちんは。
おろうあるべくや。ゆとこの佛。歌乃哥として色ま
まはあるべしべ。そぐはすよりてとに道ぐ

て感情をくとわかるべしと也。天地森羅
万象をぜんぜん法界乃仏性を円満せん事を
ごとくれも称乃うらなるべし。色ととうまう
方れかけとうぶ又その法界乃佛ようまう乃
乃如来みを由ことろうろうのうべうす
南で一とこ行ふ也でこはこれ作法也こ見な
るべしと也。法華ハ古人よりかるゝ色ほとけ
ととひしゝ。庭前柏樹とこそ云もねとそ
乃でよ為ねたしばらく所のようのことを通。
所と清ずふことかうれとうぶ。聖人まれ云ふ。

聖人まれことをれ
故我礼一切塵
佛法し智門ハ為ぐく。悲門ハくるれる妙なるご
とく。歌舞も悲門乃好士なるべし。念仏なども
為ぐ為べし。ひとへもち量地乃ごとくぶく
ぢうれ者のあ也。拙古をぎやうれうい三ん。
きるうとうまく日和こうぐうを唱へ今ふとも
拙と思為ぐびぬべし。智門ハ天台せんぎう
為べし。悲門乃ぐもるも実乃ところれ
かうべきてあず。そとへさもき和よ乃弗

万象即法界是

ときこゆるも。ひとの乃はぐるゝかさねしるも。そん
能とまるも。あハ世ハ
無常じゃ。西方浄土ハ
きゝぐ。毛毛ようざうれかみぞをたてぬるハ。
光八ちゝもまぐ也。ぢうちゝれ心いろてハ。若無の
あんづらようごく無こゝ
幻化乃智とおもうて。幻悪と除て。ねう法智たよ
幻ゆめ。なつぶ也。そぐむちんの悪悲とおもし
てむさうれさるいとちんぢうめ
古人乃語ハ。ゝれとそれ人ハ。ぢん人ハ。ぢと

とにめいしやうあれ。ありがたし也
利性慈能性。古法利道心ハ除ぬ。ハ人
ゑ雨人年毛ゑれ。ゝれとそ
そ無ゝる人ハ。ゑ乃ゝ
貧人ハ又百ゑ。ハ一度お。聖人ハ。ハ歳ハ。ひ
あゝりといゝ。大國ハ。飢ゑ。乃賢仁
ハ。ゝれ人ゑ。ゝしゝとゝ
仏法ハ。ゝ法乃財。法れ賊。七づゝ。ゝ行り
物ハ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

仏法悪七空

伝戒懇懺多闕智恵捨離

歌道七賊

大酒　睡眠　雑談　徳人　無数寄　早口　沈酔

此五ハ詩之庶言もことにわろしごとし也。

実乃言ハ大虚乃ごとく大虚乃ごとし。わろ

しなく。かけそる人もおろそし。人く困く

ろうしなくもとより也ハ此ようしずと也

大ハ[illegible]れて仁徳あり。大智いでて大偽のこと也。

迷ハ[illegible]ハ此非也。学者乃有云ハ有。皆魔也

法法実相乃ろ。雑ハ皆魔也

今法吾不肉食欲為如[illegible]破

十住心院白数作

寛正第四暦蓂賞上旬叅籠中或仁連

歌竹馬用公之一篇頻憤望しく同依雑

出頃被任筆一覧しく後則可被投畑中

也殊沾二沾悉以雑可用捨也先草案

奉所也

法ノ花　老病秋飛唯阿弥陀佛ヨ純ち也
文政四辛初冬上旬

右類本流宥ニ而ハ二版ニ仕本ヲ而校合面覚ル念
書字版ニ仕ニ以テ寒毎ニ行ニ也

嘗元禄三歳庚午三月吉旦

寺町通二条下ル町
中村五兵衛開板